

家庭学習応援だより

第5号

先日は、大洋小学校はじめての運動会へのご来校、ありがとうございました。来月には、学習発表会がございます。ぜひ、ご参観ください。

さて、学級に掲示されている「2学期の目標」を見てみると、「自主学習を60分以上やる。」、「テストで100点をとる。」、「できないことをできるようにする。」など子供たちなりに、学習の目標を立てているようです。学期の初めに充てた目標も時間がたつと忘れてしまうこともあるでしょう。また、学校行事も多く、気持ちが学習に向きにくくなる学期でもあります。家庭学習もマンネリを克服するため、充実の秋を目指してモードチェンジしたいところです。すぐに実践できて、親子でやる気になれるコツを今号ではご紹介します。



2学期の学習、ここに注目!

2学期からは、学習内容も本格的になり、学年で最も大事なことを学ぶ時期にあたります。どの学年にも「ここは絶対に落とせない」というポイントもありますので、どのような点に注意したらよいか、見ていきましょう。

1年生

漢字

・漢字が登場し、**繰り上がり**、**繰り下がり**の計算を学び始める。

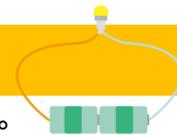
2年生

・算数の今後を左右する「**九九**」が登場!



3年生

・算数では、「**小数・分数**」、理科の「**電気**」など、抽象的な内容が増えてくる。



4年生

・算数では「**面積**」など、幾何分野の学習が本格的に始まる。



5年生

・**分数**どうしの計算や小学算数の鬼門である「**割合**」など、難しい内容を学ぶ。
・社会では、**日本の産業**など、地理分野の基礎となる学習が続く。



6年生

・算数では初めて「**比**」を学習する。また、「**場合の数**」など中学数学「確率」や高校数A、数B「**順列**、**反復試行の確率**、**等差数列**、**等比数列**、**階差数列**」などの入り口となる学習が始まる。
・社会では歴史分野から公民や公共の分野まで、幅広く学習する。



2学期の学習の最大のポイントは、学ぶ内容が本格的になるということです。1学期の期間は、特に低学年は学校生活に慣れることを重視しているため、学習内容はそれほど高度なものではありません。

しかし、教室で落ち着いて過ごせるようになる2学期以降は、学年のメインとなる内容が次々と登場します。学ぶ内容が難しくなるため、学校では時間をかけてじっくり授業を行っていきませんが、家庭学習の充実がさらに大切になってきそうです。

学校行事も多いので、時間をかけて学習を振り返ることができなくなります。いったんつまづいてしまうと、取り戻せなくなってしまうことがあり、注意が必要です。

家庭学習のトレンド



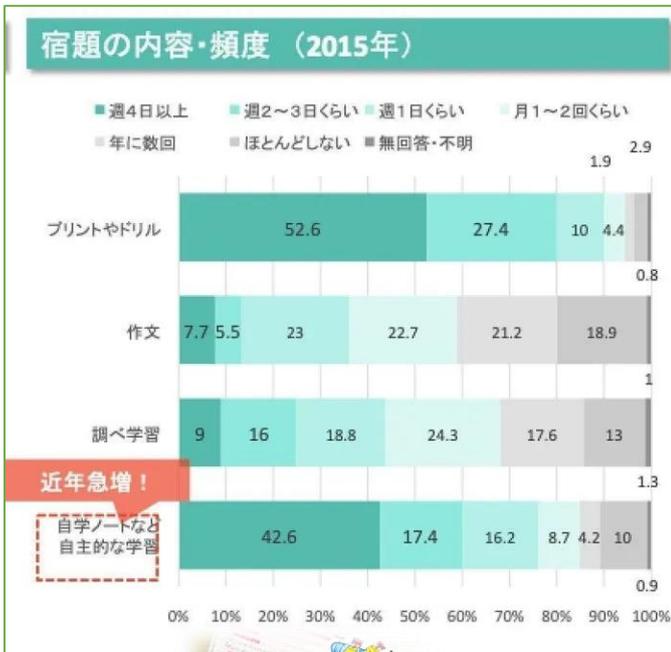
前号で本校児童の実態を知り、「このままではマズい」と、一般的な家庭学習の時間や内容について気になる親御さんも少なくないのでは？今号は、「子どもの生活と学びに関する親子調査」(東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同研究)の結果から、今の子供たちの家庭学習の実情について紹介していきます。



家庭での学習時間(「宿題」「学校の宿題以外の勉強」「学習塾」の時間)は、小学1年生で43.2分、3年生で59分、6年生になると102.3分と学年が上がるほど増加しています。注目すべきは、**低学年から宿題以外の自主的に勉強をしている**ことです。

こういった背景から、家庭でも自学自習に力を入れるようになったのでしょうか。かつては、学習時間は、学年×10分(程度)と言われていましたが、**近年では低学年からその時間以上に勉強しているのが現状です**。この結果から、学習習慣を身につけるには家庭学習は大事だと思っている家庭が予想以上に多く、家庭学習に対する保護者の意識の高さがうかがえます。

また、中学受験、高校受験、大学受験などを見据えて、よりよい進路に進むために**低学年の早い時期から学習習慣を身につけたほうがいいと思う保護者が多い**ということではないでしょうか。



自学ノートは特に高学年で多く取り入れられている自主学習の手法です。なぜ高学年に適しているかというと、「自分で目標やゴールを決めて、自分なりに問題を解いたり、考えをまとめたりしていく」という学びのスタイルは、**中学校での定期テストや実力テストにも対応でき、子供に自学自習する力にもつながる**と考えられているからです。そのため、中学校への入学準備としてから取り入れる小学校が多いようです。

内容は、自分の興味・関心があることや、習ったことを発展させた内容、漢字の書き取りまでいろいろあります。ノート1ページから、見開き2ページ程度の量を自分なりにまとめます。中には、歴史や生物などについて、中学生や高校生くらいの高いレベルの内容を調べ、まとめている児童もいるようです。

おわりに

ここでは、先程話題にした自学ノートについて、経験をもとにお伝えしたいと思います。中学校の担任時代の話ですが、多くの生徒が自学ノートに取り組んできました。苦手な教科だけやってきたり、中学生になっても小学校のように漢字や計算しかやってこなかったりと生徒によって様々ですが、中には色ペンを使い分け、絵図入りで「参考書か？」と見紛うようなきれいな自学ノートを作ってくる生徒は結構いました。ただ「悪くはないけど、本人のため(学力)になっているのかな？」と心配になる子もあり、実際、努力が成果に現れない生徒もいました。

原因は、きれいなノートを作ろうとすることに気を取られすぎていることです。ノートは後で見返して、わかるくらいの文字の丁寧さは必要ですが、必要以上にきれいさや見やすさを求めすぎると、時間を無駄に費やしてしまうことになりかねません。その生徒には、「参考書は、2冊も必要ないから、別なこと(学習)に時間を使ったほうがいいよ。書写の学習になっていないかな。」と話しましたが、「手段が目的化」してしまう典型的な例です。もし、お子様が自学ノートに取り組んでいるようなら、どんなノートになっているかチェックしてあげてください。

